

印象材と模型精度

～精度向上のチームアプローチ～

歯科技工における「模型」は、補綴物制作における原点であり基準となります。その「模型」は、口腔環境等の諸条件や印象材の取り扱い、さらには石膏操作・技工操作など様々な過程が要因となり、補綴物は模型上の適合と口腔内とが一致しない事があります。

「模型」の原点となる印象にはシリコーン印象材をはじめ数々の印象材とシステムが利用されていますが、臨床における印象の精度は模型上で製作された補綴物による確認となりますので、より精度の高い印象を得る事が基本となります。また、医療管理の観点からも感染予防に対する安全性の確保は診療室に委ねられていると共に、技工サイドにも相応の認識が必要ではないでしょうか。

今回は、一般臨床の中で最も多く利用されている寒天・アルギン連合印象におけるアルジネート印象材を取り上げ、歯科医院スタッフの作業効率を考慮しつつ安全で精度の高い模型を得る手順を提示し、日常臨床の一助にして頂きたいと思います。

歯科技工の運動機能要素

～無駄なく・無理なく・より良い技工を進めるために～

優れた歯科補綴物を製作するには相応の技術と知識が必要ですが、様々な知識や技術を習得する為に日々の仕事に加え研修の機会を設けるのは厳しいと言われます。私自身も桑田正博先生から教えて頂いた“何故の追及”を考え方の基本とし、日常業務の中でスキルアップとレベルアップに努めてまいりましたが、実際は、悩み・苦しみ・挫折を繰り返しながら葛藤の日々を送ってきたにすぎません。その中で、先輩の助言や後輩への指導の中で気づいた私流の時間の作り方・技法の覚え方・技術の高め方を、“運動機能”になぞらえてお話しします。

つまり、基本を覚えること・基準を作ることによって、自分のモノサシが出来上がり、様々なケースや状況に対応する応用力と共に、何よりも大切な柔軟な考え方、“姿勢”が身に付いたように思います。そして、歯科技工士として持てる技術・技能を社会に還元するための私共の取り組みをお伝えしたいと思います。

履歴

今牧 謙 《神奈川県歯科技工士会所属 日技認定講師》

1954年 静岡県出身

1975年 沼津歯科技工士学校卒業

1976年 (株)クワタパネント実習科入所

1983年 (株)コアデンタルラボ横浜 設立

現在, 日本歯科技工学会 理事

(株)コアデンタルラボ横浜 常務取締役

〒233-0007 神奈川県横浜市港南区大久保 1-5-26

Tel 045-840-0811 Fax 045-840-0813

Address : imamaki@coredental.co.jp

